

## 2019年度質問紙回答からみる本学学生の教職志望度の概要

### Why and How Strongly Motivated to Get a Teacher's License: A 2019 Survey of DBU Undergraduates

静 哲人・児玉 佳一

Tetsuhito SHIZUKA, Keiichi KODAMA

Key words: 教職志望度, 教職志望度の変化, 教員免許を取得する理由, 質問紙調査

#### 1. はじめに

大東文化大学教職課程センターでは、本学に入学してきた学生がどのような理由で、また、どの程度の強さで教員免許の取得を目指しており、その意識が学年ごとにどう異なるかを調べるための横断的調査を2019年4月に実施した。2018年度(静・児玉, 2018)に続く2度目の調査である。まず学生の実態を明らかにし、その結果に基づいて教職課程センターとしてよりよいサポートのあり方を模索することを目的としている。

#### 2. 調査の詳細

2018年度調査を基本的には踏襲しつつ細部は修正したものである。

##### 2.1 調査の対象および方法

新入生に関しては教職課程の履修を決める前であるが、新入生ガイダンスの一部として希望者対象に実施した教職ガイダンスの出席者を対象とした。2018年度の調査では教職を全く志望するつもりのない学生を含めた全新生を調査対象としたが、質問紙配布・回収・データ入力を担当する事務スタッフの労力対効果等を考慮し、今回は教職ガイダンスの出席者のみを対象としたものである。方法としてはA4サイズ1枚の紙ベースでその場で回答させ回収した。教職ガイダンスの出席者であるので、教員免許の取得に対して少なくとも多少の興味はある新入生集団であったはずだが、その場で配布した調査用紙にまったく回答しなかった者、あるいは教員になる意志はまったくないと回答した学生もいた。そのような学生はガイダンスに欠席した学生に準ずるとみなし分析から除

いた。

新2～4年生については調査の母集団は既に少なくとも名簿上では教職を正式に履修している学生である。しかし、教職ガイダンス内で回答を指示し、後日各自でDBポータルから回答するという形式を取ったため回答率は低く(2年: 34.7%, 3年: 87.6%, 4年: 75.6%) 3学年合わせると65.9%であった。特に2年生は過半数が回答しなかったということであり、このため本報告の妥当性には一定の留保がつくことを断っておく。

最終的に1年生802名, 2年生168名, 3年生395名, 4年生411名, の合計1776名から有効回答を得た。

##### 2.2 質問項目の作成

質問項目は著者ら2名が昨年度バージョンの分析の反省を活かした原案を作り、そこに教職課程センターの専任教員である渡辺雅之教授と仲田康一准教授からのフィードバックを得て文言を調整したものを最終版とした。

##### 2.3 質問項目

質問項目は1年生と2～4年生で共通なものと、1年生のみの項目、2～4年生のみの項目に分かれる。以下で具体的に示す。

**Q1【志望度】(全学年共通) 今、卒業後の職業としてどの程度、教員を考えていますか?**(次の5～0の6件法)

- 5: 教員のみを考えている
- 4: 教員が第一の志望である
- 3: 第一の志望ではないが教員もあり得る
- 2: 教員は志望しないが免許だけは取る
- 1: 免許だけは取るかも知れない
- 0: 教員にはならず免許も取らない(1年生のみ)

**Q2【志望のきっかけ】**（1年生のみ）**教員免許取得を考えた理由として、以下はどの程度強いですか？**（5：その通り～0：全く違う、の6件法）

- A：幼稚園の先生から良い影響を受けた
- B：小学校の先生から良い影響を受けた
- C：中学校の先生から良い影響を受けた
- D：高校の先生から良い影響を受けた
- E：担任の先生から良い影響を受けた
- F：授業で先生から良い影響を受けた
- G：部活動で先生から良い影響を受けた
- H：生活指導で先生から良い影響を受けた
- I：進路指導で先生から良い影響を受けた
- J：その他（→具体的に記述させた）

**Q3【志望度の変化】**（2～4年生のみ）**卒業後の職業として教員を志望している度合いは、1年前とくらべて変化しましたか？**（5：かなり強くなった～3：変わっていない～1：かなり弱くなった、の5件法）

**Q4【変化の要因】**（2～4年生のみ）（3：強く感じた～0：全く感じなかった、の4件法。授業に関する設問では未履修者は分析から除く）

- A：【教科・面白】この1年間、「教科教育法」の授業で、教職の面白さや楽しさを感じましたか？
- B：【教科・意義】この1年間、「教科教育法」の授業で、教職の面白さや楽しさを感じましたか？
- C：【教科・能力】この1年間、「教科教育法」の授業で、能力面の困難を感じましたか？
- D：【教職・面白】この1年間、「教職に関する科目」（教師論、教育学概論、教育心理学概論、生徒指導論、教育課程論、教育方法論、道徳教育論、特別活動論、教育相談など）の授業で、教職の面白さや楽しさを感じましたか？
- E：【教職・意義】この1年間、「教職に関する科目」の授業で、教職の意義や大切さを感じましたか？
- F：【教職・能力】この1年間、「教職に関する科目」の授業で、能力面の困難を感じましたか？
- G：【以外・面白】この1年間、大学の授業以外で、教職の面白さや楽しさを感じましたか？
- H：【以外・意義】この1年間、大学の授業以外で、教職の意義や大切さを感じましたか？
- I：【性格・不安】この1年間、自分の性格が教員に向いているかについて、不安を感じましたか？
- J：【単位・不安】この1年間、免許取得のための単位が

とれるかについて、不安を感じましたか？

- K：【教授・不安】この1年間、教員採用試験の難しさについて、不安を感じましたか？
- L：【労働・不安】この1年間、教員の労働環境について、不安を感じましたか？
- M：【別分野・興味】この1年間、教職以外に自分に向いていること・やりたいことがあると感じましたか？
- N：【その他】上に挙げた以外に、教職に対する気持ちが変化した原因があれば具体的に教えてください。（自由記述）

**Q5【志望の理由】**（全学年共通）**今、将来の選択肢として教員もしくは、教員免許の取得を考慮に入れている理由として、次はどの程度強いですか？**（5：まさにその通り～0：それは全く違う、の6件法。）

- A：人にものを教えることが好きだから
- B：人と関わる職業だから
- C：人を育てる教育という営みは重要だから
- D：授業で児童／生徒を教えたいから
- E：児童／生徒の人生に関われるから
- F：顧問として部活動の指導をしたいから
- G：教科の専門性を活かせる職業だから
- H：安定した職業だから
- I：比較的楽な職業だから
- J：資格として役に立つかも知れないから
- K：親などに免許取得を勧められているから
- L：その他の理由があれば書いて下さい。

**Q6a【教職セミナー参加度】**（2～4年生のみ）**教職課程センターの教職セミナーに参加していますか？**（3：定期的に参加している 2：時々参加している、 1：参加したことはある、 0：参加したことはない、の4件法）

**Q6b【教職セミナー要望】**（2～4年生のみ）**教職セミナーについて要望・質問があれば書いてください。**（自由記述）

この他に教員採用試験の受験希望地などを問う項目もあったが本報告では扱わない。

### 3. 結果

#### 3.1【志望度】

Q1に対する回答を基にした、学科・学年別の教職志望者およびコア志望者数、また、それぞれの在籍者数に対

表 1 学科・学年別の教職志望者およびコア志望者数と対在籍者数比率

学科	1 年		2 年		3 年		4 年		合計	
	志願(%)	コア(%)	志願(%)	コア(%)	志願(%)	コア(%)	志願(%)	コア(%)	志願(%)	コア(%)
教育	106(89.1)	89(74.8)	17(14.2)	13(10.8)	105(91.3)	82(71.3)	105(76.6)	72(52.6)	333(67.8)	256(52.1)
スポ	98(73.1)	34(25.4)	22(18.0)	13(10.7)	72(56.3)	37(28.9)	70(49.6)	31(22.0)	262(49.9)	115(21.9)
日文	69(46.9)	32(21.8)	15(a9.7)	4(a2.6)	53(35.1)	32(21.2)	48(27.4)	22(12.6)	185(29.5)	90(14.4)
書道	46(76.7)	23(38.3)	27(48.2)	9(16.1)	43(69.4)	21(33.9)	38(53.5)	8(11.3)	154(61.8)	61(24.5)
英語	64(28.1)	18(q7.9)	26(10.8)	14(5.8)	14(a5.7)	10(a4.1)	26(10.2)	12(a4.7)	130(13.4)	54(a5.6)
英米	59(48.0)	21(17.1)	7(5.3)	6(a4.5)	20(15.4)	12(a9.2)	21(13.6)	11(a7.1)	107(19.8)	50(a9.3)
中文	34(47.9)	13(18.3)	7(9.2)	3(a3.9)	18(27.3)	12(18.2)	36(34.3)	13(12.4)	95(29.9)	41(12.9)
歴史	64(66.7)	25(26.0)	16(16.0)	7(a7.0)	—	—	—	—	80(40.8)	32(16.3)
政治	47(31.5)	6(a4.0)	11(a6.7)	7(a4.3)	13(a9.5)	9(a6.6)	7(a3.9)	3(a1.7)	78(12.4)	25(a4.0)
社経	32(15.9)	7(a3.5)	9(a4.1)	1(a0.5)	19(a8.6)	10(a4.5)	15(a6.7)	5(a2.2)	75(a8.7)	23(a2.7)
経営	35(10.6)	4(a1.2)	6(a1.5)	3(a0.7)	8(a2.2)	3(a0.8)	8(a2.1)	1(a0.3)	57(a3.8)	11(a0.7)
日語	22(35.5)	7(11.3)	1(a1.4)	0(a0.0)	8(12.3)	6(a9.2)	5(a6.8)	1(a1.4)	36(13.4)	14(a5.2)
中語	25(34.2)	1(a1.4)	1(a1.3)	0(a0.0)	1(a1.4)	0(a0.0)	2(a2.0)	0(a0.0)	29(a9.0)	1(a0.3)
法律	—	—	—	—	7(a3.3)	5(a2.3)	11(a3.9)	3(a1.1)	18(a1.9)	8(a0.8)
環境	—	—	—	—	8(a4.8)	2(a1.2)	5(a2.6)	0(a0.0)	13(a3.6)	2(a0.6)
現経	0(a0.0)	0(a0.0)	3(a1.8)	0(a0.0)	6(a3.6)	4(a2.4)	4(a2.2)	1(a0.5)	13(a1.9)	5(a0.7)
国文	—	—	—	—	—	—	6(a5.4)	4(a3.6)	6(a1.4)	4(a0.9)
国関	—	—	—	—	—	—	4(a3.1)	4(a3.1)	4(a0.9)	4(a0.9)
計	701	280	168	80	395	245	411	191	1675	796
%	(29.5)	(11.8)	(6.5)	(3.1)	(15.7)	(9.8)	(14.2)	(6.6)	(16.2)	(7.7)

するパーセンテージを表 1 にまとめた。1 年生に関してはガイダンスに出席した上で 0 でない回答（1～5）をした学生を教職志望者とした。2 年生以上に関しては教職履修者をアンケート対象としていたので有効回答数を教職志望者の数とした。コア志望者数はその中で 4 「教員が第一の志望である」あるいは 5 「教員のみを考えている」を選択した者の数である。志望者数は 1 年が 701 名 (29.5%)、2 年が 168 名 (6.5%)、3 年が 395 名 (15.7%)、4 年が 411 名 (14.2%) である。1 年生が多いのは昨年通りであり、教職課程の詳細を把握していない時期だからであろう。2 年生が桁違いに少ないがこれは教職課程に在籍しながらアンケートに回答した学生が極度に少なかった（回答率 34.7%）ためである。3 年生と 4 年生はほぼ昨年通りである。昨年度の調査（静・児玉, 2018）では「450～460 名ほどが教職課程に登録し、その中の 270～280 名程がコアな教職志望者であるが、3 年生から 4 年生にかけてその数が 90 名ほど減る」と総括したが、今年の 3 年生、4 年生についてもおよそその傾向は守

られている。2 年生を除くと、コア志望者の数は 3 年までが 200 人から 300 人の間、4 年では 200 人未満になっている。

学科別に見ると志望者比率、コア志望者比率ともに最も高いのは教育学科、書道学科、そしてスポーツ科学科である。

### 3.2 【志望のきっかけ】

1 年生のみに尋ねた Q2 に対する回答（最高値 5、最低値 0）の平均値と標準偏差を学科別に表 2 に示す。便宜的に理論的な中央値である 2.50 以上のセルを網掛けにしてある。A～D は校種別の影響を、E～I は場面別の影響を探る設問である。校種別には全体に幼稚園 (1.27) < 小学校 (2.01) < 中学校 (3.03) < 高校 (3.60) の順に影響が強い（この傾向は昨年の調査と同様である）。この順序は教育学科を除くすべての学科に当てはまっている。唯一教育学科のみ高校 (3.31) よりも中学校 (3.38)、中学校よりも小学校 (3.76) の影響が高かったと回答して

表2 教職を志望したきっかけの平均値および標準偏差（1年生のみ）

学科	教師の影響（校種別）				教師の影響（場面別）				
	A 幼稚園	B 小学校	C 中学校	D 高校	E 担任	F 授業	G 部活	H 生活	I 進路
教育	1.93(1.68)	3.76(1.5)	3.38(1.56)	3.31(1.49)	4.03(1.33)	3.44(1.41)	3.13(1.66)	2.22(1.50)	2.48(1.62)
スポ	0.82(1.41)	1.40(1.66)	3.06(1.95)	3.60(1.59)	2.97(1.75)	2.94(1.78)	3.86(1.52)	1.65(1.65)	1.83(1.73)
日文	1.09(1.50)	1.81(1.78)	3.23(1.82)	3.90(1.55)	3.68(1.54)	3.67(1.57)	2.88(1.95)	1.81(1.69)	2.32(1.69)
書道	1.22(1.60)	1.88(1.96)	2.20(1.87)	4.21(1.34)	2.71(1.81)	3.29(1.85)	3.92(1.67)	1.55(1.54)	2.29(1.96)
英語	1.29(1.62)	1.87(1.69)	3.26(1.62)	3.49(1.58)	3.23(1.76)	3.28(1.46)	2.78(1.77)	1.81(1.52)	2.28(1.56)
英米	1.17(1.60)	1.75(1.79)	3.27(1.73)	3.83(1.40)	3.78(1.44)	3.89(1.27)	2.89(1.83)	1.94(1.61)	2.35(1.70)
中文	0.95(1.41)	1.38(1.66)	2.97(1.72)	3.49(1.52)	3.10(1.62)	3.44(1.43)	3.33(1.87)	2.00(1.65)	2.00(1.67)
歴史	1.19(1.67)	1.63(1.63)	3.09(1.83)	3.85(1.50)	3.35(1.79)	3.41(1.60)	2.40(1.70)	1.79(1.55)	2.28(1.74)
政治	1.33(1.70)	1.53(1.70)	2.76(1.97)	3.19(1.83)	2.67(1.83)	3.06(1.73)	2.33(1.99)	1.56(1.63)	1.84(1.72)
社経	1.11(1.59)	1.92(1.82)	2.95(1.87)	3.70(1.13)	3.14(1.70)	3.19(1.51)	2.70(1.91)	1.57(1.56)	1.64(1.48)
経営	1.73(1.60)	2.20(1.70)	2.87(1.74)	3.64(1.15)	3.13(1.50)	3.13(1.44)	2.73(1.60)	1.76(1.38)	2.42(1.59)
中語	1.13(1.63)	1.48(1.61)	2.42(1.77)	2.94(1.73)	2.84(1.94)	2.16(1.83)	2.29(1.97)	1.23(1.43)	1.65(1.70)
日語	1.13(1.87)	2.21(2.00)	2.88(1.94)	3.29(1.55)	3.50(1.79)	3.17(1.93)	2.21(1.98)	1.67(1.93)	1.92(1.93)
平均	1.27(1.62)	2.01(1.85)	3.03(1.80)	3.60(1.53)	3.32(1.69)	3.29(1.61)	2.99(1.83)	1.79(1.59)	2.16(1.70)

おり、学科の特性が読み取れる。場面別では、全体の傾向としては、生活指導（1.79）＜進路指導（2.16）＜部活（2.99）＜授業（3.29）＜担任（3.32）の順に影響が強くなっている。ただしここにも学科の特性は見られ、スポーツ科学科（3.86）と書道学科（3.92）では部活の影響が最も強い。以上、いずれも昨年度の調査と同様の結果が得られた。つぎに、校種別の影響と場面別の影響の関係を調べるためにA～Dの回答数値とE～Iの回答数値の相関係数を算出した（表3）。行に場面、列に校種をとっているが、便宜的に各列（校種）で最も相関係数の大きいセルに網掛けしてある。

基本的に全ての組合せが正の相関を示している。その中でも、担任教員から良い影響を受けたとする学生は特に中学校（ $r = .527$ ）を筆頭に高校（ $r = .484$ ）や小学校（ $r = .401$ ）の教員から良い影響を受けたとも回答する傾向にある。授業担当の教員から良い影響を受けたとする学生は、特に中学（ $r = .463$ ）・高校（ $r = .560$ ）の教員から良い影響を受けたとも回答する傾向にある。部活担当の教員から良い影響を受けたとする学生は、特に中学の教員から良い影響を受けたとも回答する傾向にある（ $r = .422$ ）。生活指導の教員から良い影響を受けたとする学生は、特に幼稚園を筆頭に（ $r = .469$ ）、小学校（ $r = .400$ ）、中学校（ $r = .440$ ）の教員から良い影響を受けたとも回答する傾向にある。進路指導担当の教員から良い影響を受

表3 校種別の影響と場面別の影響の相関係数

	幼稚園	小学校	中学校	高校
担任	.291	.401	.527	.484
授業	.241	.295	.463	.560
部活	.256	.232	.422	.345
生活	.469	.400	.440	.324
進路	.393	.390	.376	.408

注1) すべて  $p < .001$  で有意。

注2) 網掛けは各校種で最も相関係数の大きいセルである。

けたとする学生は、概ねどの校種の教員からも影響を受けたと回答する傾向にある。これらの傾向は、それまでの被教育経験の中で関わってきた教師が教職を目指すきっかけとなる存在であることを示すと同時に、各学校種の特徴に反映した職務を担っていた教員が特にキーパーソンとなっていることを示唆する。

### 3.3 【志望度の変化】

2～4年生に直近の1年間で志望度がどう変化したか尋ねた Q3 の回答を表4にまとめた。回答は5を最高とする5件法で3が中間の「変わっていない」である。各列での最頻値のセルを網掛けしてある。全学科を通じると3が最頻値であり、この1年間で志望度は変わっていないという回答が最も多い。学科別に見ても2あるい

表4 教職志望度の直近1年間の変化の分布(学科別)

学科	1	2	3	4	5	平均 (SD)
教育	15	25	68	68	51	3.51 (1.15)
スポ	13	18	55	33	45	3.48 (1.23)
日文	10	17	51	15	23	3.21 (1.18)
書道	12	25	36	26	9	2.95 (1.12)
英語	7	9	23	19	8	3.18 (1.15)
英米	3	5	27	8	5	3.15 (0.97)
中文	11	8	11	17	14	3.25 (1.42)
歴史	2	0	7	4	3	3.38 (1.20)
政治	2	4	8	11	6	3.48 (1.15)
社経	5	9	19	4	6	2.93 (1.16)
経営	1	5	8	6	2	3.14 (1.04)
中語	1	0	2	1	0	2.75 (1.26)
日語	3	1	7	2	1	2.79 (1.19)
法律	3	1	5	6	3	3.28 (1.32)
現経	0	3	3	3	4	3.62 (1.19)
環境	1	2	7	2	1	3.00 (1.00)
国文	0	0	2	0	4	4.33 (1.03)
国関	0	0	0	0	4	5.00 (0.00)
計	89	132	339	225	189	3.30 (1.19)

は1が最頻値である学科は皆無であり、多くの学科で3が最頻値である。3と4が同数である教育を除いても、4ないし5が最頻値である学科が6学科ある。以上を総合すると、教職課程に在籍している学生はこの1年に、多くは志望度を維持し、あるいは向上させていることがわかる。ただしこの解釈には注意が必要である。なぜならば本調査に回答しているのは名簿上教職課程に在籍しているだけでなく、実際に教職ガイダンスに出席して、かつ事後に自分でDBポータルから回答するという手間を厭わなかった積極的な学生だけであるからである。志望度が下がった結果、ガイダンスに出席しなかった学生は含まれていない。よって今回の結果をもってして楽観することはできない。また、1あるいは2と回答した学生もかなりいることは無視できない。

次に志望度変化の分布を学年別にまとめてみたのが表5である。学年の比較がしやすいように学年内のパーセンテージを示した。いずれの学年も3(変化なし)が最頻値であるが、そのパーセンテージは2年(45.8) > 3年(36.5) > 4年(28.7)と学年を追うごとに低下している。そのかわりに3以外の回答が増える。1の増加は3年から4年にかけて起こり、5の増加は2年から3年、

表5 教職志望度の直近1年間の変化の分布(学年別)

学年	1	2	3	4	5	平均 (SD)
2年	3.6	16.7	45.8	26.2	7.7	3.18(0.92)
3年	2.8	10.6	36.5	29.1	21.0	3.55(1.02)
4年	17.5	15.1	28.7	16.1	22.6	3.11(1.38)

注) 数値は行のパーセンテージ。

表6 重回帰分析の最終モデルのパラメータ

項	推定値	標準誤差	t値	p値(Prob> t )
切片	3.191	0.230	13.88	<.0001
教科面白	0.231	0.066	3.49	0.0005
以外面白	0.251	0.073	3.46	0.0006
以外意義	0.227	0.074	3.06	0.0023
労働不安	-0.161	0.059	-2.73	0.0065
別分野興味	-0.510	0.051	-10.03	<.0001

注) 推定値は非標準化偏回帰係数。

あるいは3年から4年にかけて起こっていることがわかる。すなわち教職課程を履修して2年、3年、4年と進級するにしたがって、教職への志望度のばらつきが大きくなっていく。これは標準偏差の増大からも明らかである。漠然と教職を志望する者も含んで課程の履修を始めるものの、時間が経つにつれて様々な要因で個人差が大きくなっていく、と解釈できるだろう。特に4年生における1の増加は、別職種への就職も含めた進路選択の中で生じていると考えられる(静・児玉, 2018も参照)。

### 3.4【変化の要因】

では、志望度の変化はどのような要因で起こっているだろうか。それを探るためQ3【志望度の変化】の回答を目標変数、Q4【変化の潜在要因】のA~Mに対する回答を予測変数として重回帰分析を行った(なお、各項目の平均値は末ページの補足表を参照されたい)。ステップワイズ法により予測変数の絞り込みを行った結果、最終的に表6のモデルを得た(自由度調整済 $R^2 = .305$ )。

すなわち志望度の変化を高める要因として有意なのはA【教科・面白】(教科教育法の授業で教職の面白さや楽しさを感じた)、G【以外面白】(大学の授業以外で、教職の面白さや楽しさを感じた)、H【以外意義】(大学の授業以外で、教職の意義や大切さを感じた)の3つであり、弱める要因として有意だったのはL【労働不安】(教員の労働環境について、不安を感じた)とM【別分野興

表7 志望動機に影響した「他の理由」

回答者番号	他の理由	変化	採用試験
1	教員として働きながら競技も続けたいがかなり難しいだろうと感じました。	5	-
2	教職の現役合格での難易度の高さ等	5	-
3	現代科学(栄養と生体機能)の授業がとても面白く、栄養に興味が出てきた。	5	公立
4	公務員になりたい	5	-
5	自分の求める将来が他にも考えられるようになった。	5	公立
6	実際に働いてる人からの意見を聞いたり教職セミナーを受けて採用試験の難しさを感じつつもやはりなりたいたと思った。	5	-
7	塾講師	5	公立
8	塾講師として勤務している塾への就職も、授業やバイトを経て考えるようになった。	5	未定
9	塾講師のアルバイトを通じて、自身の専門性を高めることを再認識した。何よりも生徒に勉強に教えることの楽しさを学んだ。	5	公立
10	塾講師をするようになり、生徒に対する思いやりや教職についての気持ちが変わった。	5	私立
11	成人式の後の同窓会で中学校の担任教員と再会し、お話をさせていただいたこと。	5	未定
12	大学に入って視野が広がったため	5	-
13	母校の部活の外部コーチを始め、改めて教える立場になりたいと思うようになった	5	私立
14	本当にやりたい仕事ではないと感じた	5	ない
15	この1年間、教職を目指して共に歩んできた友達が、就職活動を始めていて少し気持ちが揺さぶられています。	4	公立
16	もともとペット関係の仕事に興味があるから	4	公立
17	家庭教師をしたことで意識が向上した	4	公立
18	兄が教員をやっているため、現場での経験などを聞き、やりがいを感じられた	4	公立
19	採用試験の勉強と部活動の両立が難しいと感じた為。またアルバイトもしているので新卒での採用試験はかなり困難だと感じた為。	4	ない
20	自信がなくなった	4	公立
21	所属の学部の講義にとっても魅力を感じ、本当に教師になるべきか悩んでいる。	4	ない
22	職場の人間関係	4	私立
23	他にも夢がある	4	未定
24	友人との出会い	4	公立
25	一緒に教職取得を目指す人が少なくなりモチベーションがかなり下がってしまった	3	未定
26	芸術の道に進みたい	3	未定
27	公務員講座に参加して公務員になることへの意欲が湧いたこと。	3	ない
28	試験に現役で受からない可能性からくる不安	3	-
29	自分で何かをしたいと思えた	3	未定
30	就職活動で選択肢が広がったため	3	公立
31	他の仕事の魅力も見つけることができたこと。	3	-
32	大学での講義から身についたものという事柄への実感が希薄なため不安を感じる。	3	公立
33	友達が教職を諦めた	3	未定
34	留学による経験	3	未定
35	留学経験	3	公立
36	もっといろんな社会経験を積みたかった	2	ない
37	介護等体験で、生徒だけではなく高齢の方や障がいのある方との接し方ややりがいを感じた	2	私立
38	給料面	2	公立
39	教職に対しては気持ちが変わらないが、他の道を選ぶこともできると思った時に相対的に教職が弱くなることがあった。	2	未定
40	今までの自分自身の社会経験の少なさ	2	ない
41	私自身書道の教員を目指していた気持ちもあったが、教員採用の難しさを知り、違う道も考えるようになった。	2	未定
42	自分の英語力不足、「新任」という立場	2	ない
43	自分の周りが教員志望が少数であること。対策をするにあたってどうすべきか分からない。民間企業に興味を持った時期があった。	2	公立
44	自分自身の時間がない	2	未定
45	社会経験の不足	2	公立
46	趣味でしていたことが世間に評価された	2	未定
47	書道教員になれる確率が低すぎるから	2	未定
48	数学なども勉強するとわかったから	2	公立
49	先生が、とりあえず取りたいと思うならやめろといったこと。	2	ない
50	先生や先輩のお話を聞き、自分の力不足、能力不足が強く感じられたため	2	公立
51	体育の教員を志望する人が多く、空気が少ないと思ったため	2	私立
52	教員の実情など聞いたこと、民間企業に就職しようと思ったこと	1	ない
53	教師という責任の重さに耐えられる自信がなかった。	1	ない
54	教職の授業(特に3年次の授業)で教員に、教職に向いていないとやる気をなくした。	1	ない
55	生徒の親がモンスターペアレントだった場合の対処が面倒くさい	1	ない
56	大学外のサークルで色々な経験をした事。また、教育について本気で考え、教員ではできない教育をしたいと思い始めた事。	1	ない
57	勉強しなくてはいけない量の多さに覚えられる気がしなくなりやる気が下がった。	1	公立

表8 現在教職を志望する強さの平均値および標準偏差（全学年・学科ごと）

学科	A 教える 好き	B 人と 関わる	C 教育 重要性	D 授業 教えたい	E 人生に 関わる	F 部活動 指導	G 専門性 活かせる	H 安定職	I 比較的 楽な職	J 資格 役立つ	K 親の 勧め
教育	3.6(1.1)	4.1(1.0)	4.1(1.0)	3.8(1.1)	4.2(1.0)	1.8(1.5)	2.6(1.3)	3.4(1.3)	0.8(1.2)	3.0(1.5)	1.9(1.6)
スポ	3.6(1.2)	3.7(1.2)	3.7(1.2)	3.6(1.2)	3.7(1.3)	4.0(1.1)	3.7(1.2)	3.3(1.4)	1.1(1.3)	3.0(1.6)	2.0(1.8)
日文	3.4(1.3)	3.5(1.3)	3.7(1.1)	3.5(1.3)	3.5(1.3)	2.5(1.8)	3.5(1.3)	3.3(1.4)	0.8(1.1)	3.2(1.6)	1.9(1.8)
書道	3.4(1.3)	3.3(1.3)	3.6(1.2)	3.4(1.3)	3.2(1.3)	3.4(1.4)	4.2(1.1)	3.6(1.2)	0.8(1.1)	3.5(1.4)	2.8(1.9)
英語	3.3(1.4)	3.4(1.4)	3.5(1.3)	3.4(1.4)	3.4(1.4)	2.5(1.8)	3.4(1.4)	3.4(1.3)	0.9(1.1)	3.3(1.6)	2.3(1.9)
英米	3.5(1.2)	3.7(1.3)	3.8(1.3)	3.5(1.2)	3.4(1.3)	2.8(1.7)	3.4(1.3)	3.5(1.3)	1.1(1.3)	3.3(1.5)	2.1(1.9)
中文	3.8(1.2)	3.7(1.3)	3.9(1.3)	3.6(1.2)	3.5(1.4)	3.3(1.7)	3.5(1.5)	3.4(1.5)	1.0(1.5)	3.3(1.4)	2.3(1.9)
歴史	3.3(1.3)	3.4(1.4)	3.4(1.3)	3.4(1.4)	3.2(1.4)	2.5(1.7)	4.0(1.0)	3.6(1.3)	1.1(1.2)	3.7(1.3)	2.0(1.7)
政治	3.1(1.4)	3.2(1.5)	3.5(1.5)	3.0(1.5)	3.1(1.5)	2.7(1.7)	3.2(1.4)	3.2(1.4)	1.3(1.4)	3.2(1.6)	2.1(1.8)
社経	3.6(1.2)	3.5(1.3)	3.6(1.3)	3.3(1.3)	3.4(1.3)	3.3(1.7)	3.2(1.1)	3.1(1.4)	0.9(1.2)	3.2(1.5)	2.0(1.8)
経営	3.3(1.3)	3.2(1.4)	3.5(1.2)	3.1(1.3)	3.2(1.4)	2.6(1.7)	3.0(1.3)	3.2(1.5)	1.3(1.3)	3.7(1.5)	2.8(1.9)
中語	2.4(1.6)	2.9(1.7)	2.8(1.7)	2.4(1.5)	2.1(1.4)	1.6(1.4)	2.9(1.7)	3.6(1.3)	1.1(1.1)	3.8(1.0)	2.3(2.0)
日語	3.4(1.2)	3.4(1.3)	3.3(1.4)	3.0(1.5)	3.3(1.5)	2.2(1.8)	3.0(1.3)	3.4(1.4)	1.3(1.6)	3.7(1.5)	2.5(2.0)
法律	3.6(1.2)	3.7(1.1)	3.7(1.3)	3.3(1.3)	3.6(1.3)	3.1(1.8)	2.8(1.1)	2.5(1.6)	0.8(0.8)	2.2(1.7)	1.5(1.8)
現経	3.4(1.1)	3.5(1.1)	3.7(0.9)	3.3(0.9)	3.5(1.2)	3.0(1.6)	2.9(1.3)	3.0(1.2)	0.9(1.0)	2.8(1.3)	2.1(1.6)
環境	3.6(0.5)	3.4(1.2)	3.8(1.1)	3.7(1.3)	3.9(1.0)	3.6(1.8)	3.3(1.4)	2.9(1.4)	0.8(1.2)	2.9(1.8)	2.4(1.4)
国文	3.3(1)	4.3(0.5)	4.0(1.5)	3.7(0.5)	4.7(0.5)	2.3(1.4)	1.7(1.9)	2.7(2.1)	0.0(0.0)	1.0(1.5)	1(1.5)
国関	5.0(0.0)	5.0(0.0)	4.5(0.6)	5.0(0.0)	5.0(0.0)	3.5(1.7)	3.5(1.7)	4.5(0.6)	2.5(2.9)	3.5(1.7)	2.5(2.9)
計	3.5(1.2)	3.6(1.3)	3.7(1.2)	3.5(1.3)	3.5(1.3)	2.8(1.7)	3.3(1.4)	3.4(1.4)	1.0(1.2)	3.2(1.5)	2.1(1.8)

注) 括弧内は標準偏差である。

味】(教職以外に自分に向いていること・やりたいことがあると感じた)であったと言える。この中で特に【別分野興味】の影響が大きいと言えそうである。

自由記述してもらったその他の理由を表7にまとめる。それぞれの記述をした場合の志望度変化と採用試験受験の予定も併記した。これらの自由記述を要約するのは必ずしも容易ではないがいくつかの共通点を読み取ることができる。まず、志望度が上がった(5, 4)回答者の中に塾講師・家庭教師・外部コーチなどの教える立場のアルバイトに言及するものが6件(回答者番号7, 8, 9, 10, 13, 17)ある。また、現職の教員の話聞いて志望度が上がったという回答が3件ある(6, 11, 18)。ただし、教育現場の状況を知ることは逆に作用することもあり、志望度が下がった(2, 1)という回答の中にも教職の実状に関するネガティブなコメントも見られる(44, 52, 53, 55)。また、採用までの道のりの困難さに言及するものが多い(41, 47, 48, 51, 57)。ただし、志望度が下がった中にも、他の分野への興味を発見したこ

とに言及する前向きな回答もかなり多い(30, 31, 36, 39, 46, 56)。

### 3.5【志望の理由】

Q5に対する回答を表8に示す。回答は5～0の6件法であり、3以上がどちらかといえば同意することを表し、2以下がどちらかと言えば同意しないことを表す。理論的な中央値プラス1である3.5以上のセルに網掛けしてある。

全体で見るとA～Eまでが3.5以上であり、F～Kまでよりも数値が高い傾向が見られる。最も数値が高いのはC「教育という営みは重要だから」(平均3.7)である。反対に最も数値が低いのはI「比較的楽な職業だから」で平均値が1.0とほぼ同意されていない。またK「親などに勧められて」も平均値が2.1とかなり同意度が低い。ただしKに関しては標準偏差が1.8と最も高く、個人差が大きい傾向が読み取れる。標準偏差が次に大きいのはF(部活動の顧問として指導したいから)であり、部活

表9 現在教職を志望する強さの平均値および標準偏差（全学科・学年ごと）

学年	A 教える 好き	B 人と 関わる	C 教育 重要性	D 授業 教えたい	E 人生に 関わる	F 部活動 指導	G 専門性 活かせる	H 安定職	I 比較的 楽な職	J 資格 役立つ	K 親の 勧め
1年	3.4(1.4)	3.4(1.4)	3.4(1.4)	3.3(1.5)	3.2(1.5)	2.8(1.7)	3.4(1.4)	3.5(1.4)	1.3(1.3)	3.6(1.4)	2.3(1.8)
2年	3.3(1.1)	3.4(1.2)	3.7(1.2)	3.5(1.2)	3.4(1.3)	2.8(1.7)	3.4(1.3)	3.4(1.3)	0.8(1.0)	3.1(1.4)	2.3(1.8)
3年	3.6(1.1)	3.8(1.2)	3.9(1.0)	3.8(1.1)	3.9(1.2)	3.0(1.7)	3.4(1.3)	3.4(1.3)	0.8(1.1)	2.9(1.6)	2.0(1.8)
4年	3.5(1.1)	3.9(1.1)	4.0(1.1)	3.5(1.2)	3.9(1.1)	2.6(1.7)	3.2(1.3)	3.2(1.4)	0.7(1.1)	2.8(1.5)	1.9(1.8)
計	3.5(1.2)	3.6(1.3)	3.7(1.2)	3.5(1.3)	3.5(1.3)	2.8(1.7)	3.3(1.4)	3.4(1.4)	1.0(1.2)	3.2(1.5)	2.1(1.8)

動に関しても個人差が大きいようである。

学科別の特徴としてはまず教育学科のB, C, Eの数値が4.0を超えている。教育学科生が教職を基本的に「人との関わり」という視点で捉えていることがわかる。次にスポーツ科学科はFの数値が4.0であり、運動部の顧問を志望していることがわかる。書道学科についてはG「専門性が活かせるから」の数値が4.2と突出して高い。最後に歴史文化学科もGの数値が4.0と高い。歴史文化学科のこの傾向は昨年にも観察されたが、昨年度は1年生しかいなかったため解釈を留保していた。今回1～2年生を合わせても同じ傾向が見られたため、歴史文化学科生は「専門性を活かしたい」という意識が強いと考えてもよいだろう。以上の傾向は昨年度の調査（静・児玉, 2018）と基本的に共通である。

次に同じ回答を学年別に集計したのが表9である。おおよそ昨年の調査と同様の傾向が認められる。すなわち、まずA～Eに関しては、1年生よりも2～4年生の数値が高い。漠然とした思いを抱いているに過ぎない1年生に対して、教職関係の授業を履修してきている2年生以上は教職に対する本質的な理解が深まってきた結果、数値が高まっていると解釈される。これに対してH「安定した職である」とJ「資格として役立つ」は1年生が最も高く、学年が進むにつれて低くなる傾向が見られる。また、全体としての数値はかなり低いI「比較的楽な職業である」でさえ、1年生は1.3と、2年生以上の0.7～0.8とは明らかに差が見られる。これは教職課程未履修である1年生はある種「甘い」考えを持っているが、それが教職課程を履修するに従って修正されている、と解釈できるだろう。

### 3.6 【教職セミナー参加度】

最後に教職セミナーの参加度についてのQ6aへの回答を学科ごとに表10に、学年毎に表11にまとめた。参加

表10 教職セミナー参加度（学科ごと・2～4年生）

学科	参加度0	参加度1	参加度2	参加度3
教育	142	31	23	30
スポ	105	24	19	15
日文	76	20	10	9
書道	74	13	15	4
英語	47	7	4	8
英米	38	1	4	4
中文	38	8	7	6
歴文	9	3	0	4
政治	23	2	4	2
社経	33	5	2	3
経営	15	5	2	0
中語	4	0	0	0
日語	13	0	0	1
法律	14	2	1	1
現経	9	2	1	0
環境	11	1	0	0
国文	0	4	0	2
国関	0	0	2	2
計	651	128	94	91

表11 教職セミナー参加度（学年ごと）

学年	参加度0	参加度1	参加度2	参加度3
2年	125	25	10	8
3年	307	34	30	14
4年	219	69	54	69

度3（定期的に参加）が最も多いのは教育学科、スポーツ科学科、日本文学科、そして英語学科である。学年ごとにみると、2年よりも3年、3年よりも4年と参加度の高い人数が増える傾向が見られる。



表 12 教職セミナー参加度と教員志望度の関係

	参加度 0	参加度 1	参加度 2	参加度 3
志望度 1	20	5	1	0
志望度 2	131	20	7	1
志望度 3	202	38	15	9
志望度 4	204	40	38	30
志望度 5	94	25	33	51

次に、教員志望度と教職セミナー参加度をクロス集計した結果を表 12 に示す。予想通り教員志望度が高いほど教職セミナーの参加度は高まるという傾向が示された

( $\chi^2 = 123.396$ ,  $df = 12$ ,  $p < .0001$ , Cramer's  $V = 0.206$ )。ただし、志望度 5 と回答しながら参加したことがない学生が 94 名、志望度を 4 と回答しているが参加していない学生も 204 名おり、合計 300 名近くが志望度は高いにも関わらずセミナーを利用していないことになる。この内訳を調べてみると、2 年生が 61 名 (20.5%)、3 年生が 188 名 (63.1%)、4 年生が 49 名 (16.4%) である。2 年生は志望度が高くともまだ参加していないのかも知れないが、3 年生の多さは見過ごせない。志望度が高いのになぜ参加しないのか、その答えのヒントを次項の回答に探った。

### 3.7 【教職セミナー要望】

自由記述による教職セミナーに対する質問・要望を表 13 に示す。回答者の属性として学科・学年・教職セミナー参加度も表示した。コメントをまず参加度、次に学年でソートした。定期的な参加者からはセミナーの内容や物理的環境などについての具体的な要望が見られる。今後の運用の参考にしたい。その一方で、参加したことがない学生からは、開催時期や内容をより広く告知してほしい旨の要望が散見される。宣伝は現在も行っているがより広く伝達されるよう工夫して行きたい。

## 4. まとめと考察

本調査は昨年度の調査（静・児玉, 2018）に続く 2 回目の調査であった。ここでは、昨年度の調査結果と比較可能な点については、比較しながらまとめた。

- (1) ある程度の回答率だった 3・4 年生に限定されるが、昨年度同様、全学生のうち約 15% が教職履修者であり、約 7～10% が特に教職を志望するコアな学生である。
- (2) 昨年度同様、コアな志望者が多い学科は教育学科、書道学科、スポーツ科学科であった。この 3 学科は教職

志望者数が安定している学科と判断できる。

(3) 教職志望のきっかけも、昨年度と同様に高校教員からの影響が最も大きい。そして、教育学科は小学校教員からの影響が多い。

(4) 上記に加えて、学校種別教員の影響と場面別教員の影響の相関関係を調べたところ、各学校種の特徴を反映した職務を担っていた教員が特に教職志望のきっかけにおけるキーパーソンとなる可能性が示された。

(5) 昨年度と同様に、教職志望度はこの 1 年で概ね増加傾向にある。特に 2・3 年生において増加傾向にある一方で、4 年生では多職種への就職も念頭に入れるためか、教職志望度が下がる学生も多くなる。

(6) 教職志望度の変化に関連する要因として、教科教育法における教職の面白さや楽しさを感じる経験、大学の授業以外での教職の面白さや楽しさを感じる経験、大学の授業以外での教職の意義や大切さを感じる経験の 3 つが正の関連を示し、その一方で、教員の労働環境についての不安や、教職以外に自分に向いていること・やりたいことが見つかったことが負の関連を示した。

(7) 志望理由でも昨年度と同様に、「人と関わる職業だから」、「教育は重要だと考えるから」といった教育の本質に関わるものが強かった。

(8) 今年度新たに実施した教職セミナーへの参加度については、教職志望学生の多い学科での参加が多く、また、学年が高まるにつれて参加度が高まる傾向にあり、そして、志望度が高いほど参加度が高まる傾向にあった。

(9) その一方で、志望度が高いにもかかわらず 300 名近くが教職セミナーを利用していない実態も示された。特に 3 年生において顕著であった (63.1%)。

(10) 教職セミナーに参加したことがないという学生からは、存在自体を知らない、既存のコミュニティ参加に抵抗があるといった自由記述も見られた。

これらの調査内容を総括すると、基本的な傾向は前年度調査と同様であるといえる。昨年度調査だけでは単年の結果でしかなかったが、2 年連続で同様の傾向が見られたことで、調査結果の頑健性が示されたといえる。

また、今回新たに行った分析からもいくつか豊富な示唆が得られている。例えば、教職志望度の変化に関連する要因には、教科教育法のような大学での講義における経験だけでなく、大学の講義以外における経験が正の関連を持つことが示された。この分析は、ステップワイズ法による重回帰分析であるため、選択されなかった他の要因が正・負の関連を持たないということを意味するも

表 13 教職セミナーに対する要望の一覧

回答者番号	記述内容	学科	学年	参加度
1	“いつやっているのか”やイベント、やってもらえる対策の案内をもっと広く発信してほしい。	教育	4	3
2	教員を増やして欲しい	教育	4	3
3	教職教養の対策が欲しい。プリントの充実化。	教育	4	3
4	〇〇先生のような教採の試験対策に特化している先生が欲しい	教育	4	3
5	集団討議などの練習がしたい	教育	4	3
6	今後ともよろしく願っています	日語	3	3
7	板橋校舎の教職セミナーは3年から参加することは可能ですか？また、夏季休業の時に教職セミナーを開催する場合は早めに連絡して頂けると有難いです。	教育	3	3
8	学科ごとに、使用する教室を分けて欲しいと思います。又、廊下等で話し声が聞こえる場合があり、気が散る時があります。	中文	4	2
9	教職教養の授業を〇〇先生がいなくなってもやってほしい。	教育	4	2
10	参加しやすい雰囲気だとよい。	書道	4	2
11	数学（理科）は誰に聞けばいいですか？	教育	4	2
12	数学のわからない問題を聞ける先生がいなくなりました	教育	4	2
13	集中講座の回数をもっと増やして欲しい。	法律	3	2
14	今からでも参加できますか？	教育	4	1
15	今から始めても遅くないよう、最低限のことを教えて欲しい	スポ	4	1
16	特にありません。現状のままでもとても良いものだと思います。	教育	4	1
17	どのような感じでセミナーをいているのか知りたい	英米	4	0
18	告知を多くした方が助かります。四年時に知ったのですが、とてもいい環境だと知りました。	日文	4	0
19	存在をあまり知らない	政治	4	0
20	入りにくい空気がある	社経	4	0
21	ガイダンスを受け、参加したいと感じた。	英語	3	0
22	どんなことをやっているのか、コミュニティがすでに出来上がっていて途中参加はしづらいのではないか。	日文	3	0
23	一般企業も受けてる人はいるのか気になる。	英米	3	0
24	何を勉強すれば良いか教えてほしい	スポ	3	0
25	具体的な日時を掲載して欲しい。公式のホームページで確認したがDBポータルからでも見れるようにして欲しい。	英米	3	0
26	行う日程や場所などを明確に伝えてほしいです。	スポ	3	0
27	情報保障をつけて臨んで良いのか戸惑いがあるのでつけて良いのか知りたい。	日文	3	0
28	2年次でも参加できるものはありますか？	スポ	2	0
29	いつやっているのでしょうか	歴史	2	0
30	開催情報どうやって知ればいいですか	スポ	2	0
31	採用試験に受かるためにどのように勉強しているのか	政治	2	0
32	存在を知りませんでした	英米	2	0

のではない（あくまでモデルの適合度から取捨選択された予測変数である）。しかし、例えば姫野（2013）では、教職志望学生 10 人に対して、大学 1 年次からの定期的なインタビュー調査において、教職志望学生が部活やサークル、アルバイトやボランティアなどの多様な学校外の経験の中で教職世界を見つめ直している様子が描かれている。こうした学生のリアルな様子を具に捉えた研究が示す知見と、大学外の活動の中で教職に対してポジティブな意味を見出すことを示唆する本調査の知見は整合的である。

この知見を踏まえると、教職カリキュラムとしての講義の充実化と共に、大学での講義以外の経験という点にも着目することが重要であると考えられる。本センターでは、沖縄県名護市教育委員会と連携した教職インターンシップを 2016 年より継続している。また、板橋区教育

委員会や埼玉県の子どもの学習支援事業（アサポート事業）を運営する一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワークと連携して、学校外での活動のさらなる拡大を目指している。こうした活動に際して、ただ拡大していくだけでなく、こうした活動経験と学生の認識との関連を検証していくことが求められるだろう。

さらに本調査では、教職セミナーに関する学生の実態についても検討している。本調査とは別であるが、教職セミナーへの参加時期の早さと教員採用試験の合格者数には関連があることが示されており、教職志望学生には早い段階での教職セミナーへの参加が望まれる。しかし、志望度の高い 3 年生でも約 60%、4 年生でも約 15% がセミナーに参加していない実態が浮き彫りとなった。その理由からは、教職セミナー存在自体を知らないというもののや、いつ開講しているのか知らないという情報伝達不

足の様子や、入りにくい、参加しにくい雰囲気があると  
いった、既に完成している学生コミュニティへ新参者として参加することを躊躇う様子が見出された。情報伝達不足については、周知方法などの改善が必要であるが、伝える情報において途中参加でも大丈夫であることも含めることが求められる。また、セミナーを担当する教員が新しく入る学生を受け入れる雰囲気を作ることも求められるだろう。

最後に、本調査の限界点と今後の展望について述べる。第一に、本報告の冒頭でも述べたように、昨年度調査に比べると今年度は回答率が低い（2年：34.7%、3年：87.6%、4年：75.6%、3学年合わせると65.9%）。仮に各学科においてランダムに抽出されたサンプルであれば十分な推定も可能であるが、本調査では学科間での回答率の偏りも大きかった。この点を踏まえ、次年度の調査では、十分な回答率に繋がるような方策が求められる。

第二に、本学の教職課程の特徴を捉える調査の実施の必要性が挙げられる。ここまでの2回の調査において、教職課程を履修する本学学生の様子はある程度把握でき

てきている。こうした調査事項は最終的に縦断的分析を行うために継続していくことが必要であるが、その一方で、教職セミナーや教職インターンシップといった本学教職課程に特徴的な取り組みがどういった影響を学生に与えているかといった点からの検討も必要であると考えられる。これらの点は来年度調査に繋げたい。

## 謝辞

本調査に回答してくださったすべての学生諸君および実施実務とデータ整理に当たってくださった教職課程センター事務職員の方々に心より感謝いたします。

## 引用文献

- 姫野完治 (2013). 『学び続ける教師の養成—成長観の変容とライフヒストリー』 大阪大学出版会  
 静 哲人・児玉佳一 (2018). 「2018 年度質問紙回答からみる本学学生の教職志望度の強さ」 『大東文化大学教職課程センター紀要』 第3号, pp.79-90

補足表1 志望度の変化の潜在要因に関する問に対する回答の平均値（学科別）

学科	A 教科 面白	B 教科 意義	C 教科 能力	D 教職 面白	E 教職 意義	F 教職 能力	G 以外 面白	H 以外 意義	I 性格 不安	J 単位 不安	K 教採 不安	L 労働 不安	M 別分野 興味
教育	2.12	2.43	2.35	2.13	2.49	2.38	2.12	2.28	2.26	1.45	2.43	2.42	1.64
スポ	1.96	2.31	2.10	2.01	2.27	2.11	1.98	2.09	1.98	1.35	2.54	2.22	2.00
日文	2.14	2.56	2.45	2.07	2.50	2.25	1.92	2.21	2.19	1.61	2.63	2.53	1.84
書道	1.95	2.43	2.39	1.82	2.34	2.28	1.70	2.06	2.08	1.78	2.61	2.54	2.02
英語	2.00	2.50	2.68	1.94	2.44	1.95	1.83	2.11	2.12	1.85	2.42	2.39	2.06
英米	2.00	2.44	2.56	2.21	2.48	2.58	2.00	2.21	2.19	1.77	2.63	2.42	1.69
中文	2.10	2.50	2.65	2.20	2.68	2.28	2.00	2.25	1.97	1.72	2.59	2.31	2.03
歴文	—	—	—	2.19	2.56	2.44	2.25	2.25	2.06	2.13	2.69	2.63	1.75
政治	2.10	2.80	2.18	2.03	2.54	2.07	1.97	2.48	1.84	1.87	2.58	2.55	1.84
社経	1.95	2.24	2.29	1.95	2.33	2.10	1.77	1.91	1.91	1.81	2.37	2.19	2.05
経営	2.00	2.11	2.00	2.05	2.24	1.90	2.09	2.09	1.91	2.14	2.32	2.18	2.14
中語	2.00	3.00	2.50	2.25	2.75	1.25	0.75	1.50	2.25	2.75	2.00	2.50	2.50
日語	2.25	2.38	2.38	2.14	2.29	2.21	1.79	2.07	1.86	1.79	2.36	2.50	2.00
法律	2.33	2.38	2.08	2.00	2.33	1.78	1.94	2.00	1.72	1.61	2.50	2.28	2.06
現経	2.00	2.43	2.00	2.00	2.31	1.85	1.69	2.15	2.15	1.69	2.54	2.00	1.77
環境	1.80	2.22	2.11	2.00	2.31	2.31	1.85	2.15	2.15	2.15	2.00	2.31	2.46
国文	2.67	3.00	2.33	1.67	2.67	2.00	2.67	2.67	2.00	2.67	2.67	1.67	1.33
国関	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.50	3.00	3.00	3.00	1.50
平均	2.06	2.43	2.33	2.05	2.43	2.22	1.96	2.17	2.09	1.64	2.51	2.39	1.89

注) 標準偏差は紙面の都合上省略した。